農協役員室で――ネズミ盗聴記

元県農協学園長
秋田 義信

津軽の大地主（大正12年）

住所	氏名	所有田（町歩）	所有畑（町歩）	小作人数
西郡 中村	一戸虎三郎	九五	五	二一〇
〃	一戸才門四郎	四九	二	九八
森田	原田藤次郎	二一三	一四	二〇〇
〃	原田豊次	一〇二	一一	三〇〇
〃	佐藤四郎	五八	一	五〇
柴田	小林曠江	五〇	二	六〇
〃	石田ミチエ	六五	三	六〇
水元	渋谷文男	一四二	二七	一六〇
館岡	長谷川一郎	一九九	八	二〇一
車力	鳴海周次郎	一七八	七	二〇〇
木造	高谷豊之助	二三七	三	二四一
〃	市田忠八	六〇	三	五〇
十三	小倉常吉	八四	〇	六五
中郡 高杉	高杉金作	六五	三	一〇五
千年	松木純一郎	五八	二	一一〇
和徳	笹森栄	八〇	一二	一六〇
南郡 藤崎	長谷川潤	四六	八	六四
田舎館	阿保助一郎	四八	七	二一〇
〃	佐藤源蔵	一二二	一〇	二五〇
〃	田沢信	八三	七	一五〇
五郷	長谷川信太郎	七三	五	一六二
〃	長谷川宗一	六三	一一	一五三
畑岡	田中初太郎	三八	三三	九五
黒石	加藤宇兵衛	一四三	六	二五〇
〃	鳴海文四郎	八五	三	一四五
〃	西谷茂太郎	六三	〇	一四〇
浅瀬石	鳴海浜代	九〇	二八	一五五
中郷	対馬諠太郎	一三〇	二	二一〇
六郷	宇野清左衛門	一五七	一三	二七五
竹館	相馬貞一	五〇	一七	七五
〃	外川平八	四九	八	七〇
尾上	西谷寿郎	六三	二三	一五八
北郡 七和	阿部誠一郎	一〇四	一二	九八
〃	楠見芳幹	五二	六	五一
沿川	斉藤純吉	一一二	二〇	一四七
金木	津島文治	二一九	一	二九〇
〃	高橋弥左衛門	八〇	一	一二四
五所川原	佐々木嘉太郎	六〇九	三八	八九四
〃	平山又三郎	三六五	二九	四六八
〃	沢田長助	五六	五	八二
板柳	安田元吉	一二一	二〇	五〇
〃	竹泉繁造	九五	四二	一五〇
〃	安田〇造	九二	一五	一一三
〃	安田才助	二〇一	三三	二八〇
〃	安田久五郎	五〇	一六	八〇
〃	青山浅次郎	六五	一六	九八
〃	佐々木健次郎	四一	一〇	六〇
内潟	宮越正治	一〇六	五	一二三

（山本省一著「農地改革史」による）

コメント　GHQ（連合軍総司令部）の命令による「農地改革」で終戦直後、農地はすべて耕作者のものになった。（タダ同様の価格で）

よって、「地主」「小作人」というものが無くなった。農地改革前の小作人が地主に納めた「小作料」が収量の四－五割。

太宰治が東大在学中に、青森から押しかけた小山初代と同棲、そのとき兄、文治が太宰に毎月送金した金額が毎月百二十円。その頃、小学校の校長の月給が六十五円。

斜陽館（津島家）の建築が明治四十年。棟領は堀江佐吉（弘前）、工費は一万円説と四万円説あり。

当時、労働賃金が一日三十五銭。

十三村に田が一枚もないのに同村の小倉家が大地主。同家は「北前船」時代、回船問屋で儲け、車力村、内潟村などの田を買いふやしたものだという。

農地改革（昭和22－25年前の農家の階層）

総地主（耕作せず農地を全部貸している）

自作兼、地主（借子（かりこ）を置いて耕作している）

自作農（耕作地は全部自分の所有）

自作兼、小作（耕作地の一部は借りている）

小作農（全部借地）

手間取り（耕作地がなく日雇農家）